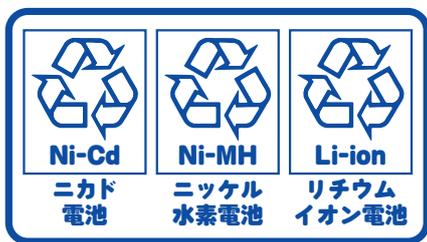


知っているようで知らない
「ごみの正しい出し方」

充電式電池

モバイルバッテリー、ノートパソコン、ハンディクリーナー、ロボット掃除機、電子たばこ、電気かみそり、電動工具など、充電して使用する機器には、ニカド電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池などの充電式電池が使われています。



充電式電池は、もえるごみ、もえないごみなどに混ざって回収されると発火の原因になり、収集車やごみ焼却炉に多大なダメージを与えてしまいます。

①電池を取り外せるものは外して電極にテープを貼り(絶縁して)、使用済小型家電回収ボックスの電池投入口に入れる、②取り外していないものは小型家電投入口に入れる、③回収ボックスに入らないものは、ごみ処理施設に直接持ち込む。いずれかの方法で処分してください。

使用済小型家電回収ボックスは、各区役所、図書館、公民館などに設置してあります。



「桜エコ・フェスタ2021」の開催を記念して募集した桜環境センター・ビオトープの愛称が決定しました。新しい愛称は「シーオ(SEEEO)」です。
 Sakura(桜)の「S」、



ビオトープの愛称決定
「ジーオ(SEEEO)」

「シーオそだて隊 真冬の生きもの大搜索」
 12月19日(日)・26日(日)・1月30日(日)、シーオそだて隊「真冬の生きもの大搜索!」を行いました。3日間合わせて57名が参加

Environment(環境)の「E」Ecosystem(生態系)の「E」Observation(観察)の「O」の頭文字をとったものだそうです。今後も皆さんに愛される、桜環境センター・ビオトープ「シーオ(SEEEO)」となるよう、運営していきます。



生きもの大搜索

し、トンボの幼虫やクモなどの生きものを見つけていました。
 また、2022(令和4)年度からは「田んぼクラブ」の活動をシーオそだて隊に行います。当日受付の活動と予約が必要な活動がありますので、詳しい活動内容、日程はHP、市報でご確認ください。皆さまのご参加をお待ちしています。

桜環境センターの
 利用団体紹介

**桜金継ぎ
 サークル**

こわれた器に命を吹き込む
 桜金継ぎサークルは2017年、桜環境センターで開催された金継ぎ講座をきっかけに発足。材料や道具を共有し、お互いに切磋琢磨しながら活動しています。
 会員は現在25人。参加動機のひとつが、思い出の品を大切に使用したい、お気に入りの品をよみがえらせたいという気持ちで、毎週、



●桜金継ぎサークルを、より詳しく紹介しているHPはこちら。
 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊



欠けた器を持ち寄って、賑やかに活動しています。
 江戸時代から続く技術
 「金継ぎ」とは、壊れた陶器を漆で接着し、装飾を加えて新しく蘇らせる方法です。縄文時代から使われていた漆の技術に「わび・さび」の美意識、金蒔絵の技術などを取り入れながら発達し、江戸時代には庶民の日常にまで浸透していた、日本独自のわざです。
 長年続けているうちに熟達しても、技術だけではない、センスが求められるので、新しい挑戦はずっと続いていきます。
 金を蒔(ま)くと一口に言っても、キラキラした金がいいのか、渋い金がいいのか、漆だけで継いだほうがいいのか、一つ一つの器に合わせた継ぎ方があります。また、絵を描いたり、欠けた部分そのものを形成することもあります。

十人十色の継ぎ方